

# 中国重慶市「万丈坑」調査報告

Report of Wanzhangkeng cave in Chongqing China

吉田勝次 (YOSHIDA, Katsuji) Japan Exploration Team 所属 愛知県在住)

## はじめに

JETはこれまで2006年から中華人民共和国での洞窟調査を継続してきました。中国での調査を開始した当初から交流を深めてきた中国人ケイパーとの連携によって、情報収集から下見までスムーズに行える環境にあります。

2011年11月15日～30日、かねてから計画していた竪穴の調査を目的とした、中国との合同探検調査を行いました。調査は、JETから5名、中国チーム4名のサポートによって編成したチームで実施しましたが、折悪く続いた悪天候に悩まされる日々でした。天候の回復を待つ間に、天候に左右されない場所を選び、目的の洞窟以外に他2つの新洞を探検しました。

ここでは今回の探検調査のメインターゲットとして探検・測量を行った、万丈坑(マンジョウコウ)についてご報告します。

## ●万丈坑の概要

### (1) 名称

万丈坑 (まんじょうこう)

名称の由来「丈(じょう)」とは尺貫法の長さの単位。1丈で10尺(中国では約3.33mとされている)。万丈(まんじょう)もあるかもしれない深い洞窟という意味で地元では呼ばれているそうです。

### (2) 所在地・洞窟データ

中華人民共和国 重慶市涪陵区

洞口標高 1,300m

高低差 715m

測線延長 1,514m



重慶市涪陵区

(<http://www.chinfor.com/>より引用)

### (3) 洞内記載

洞窟は南西方向に向いている層理面に沿って発達している。平均傾斜は25.2度。

大まかな洞窟の形状は、竪穴からはじまり、横穴の地下河川型にいったん変化し、また竪穴の形状に戻り、更にその後、地下河川へと何度も繰り返す、まさに竪横複合型の洞窟である。

生成物はそれほど顕著なものではなく、鍾乳石は-635m地点にある高さ10m、35mのフローストーン以外はあまり発達していない。それよりも石灰岩の中に入っている鉱物なのか？化石なのか？判断しづらいものが岩の表面に多く見られ、洞内全域でかなり頻繁にさまざまな形状のものを確認することができる(写真3参照)。

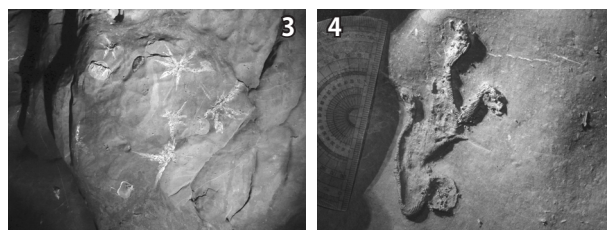
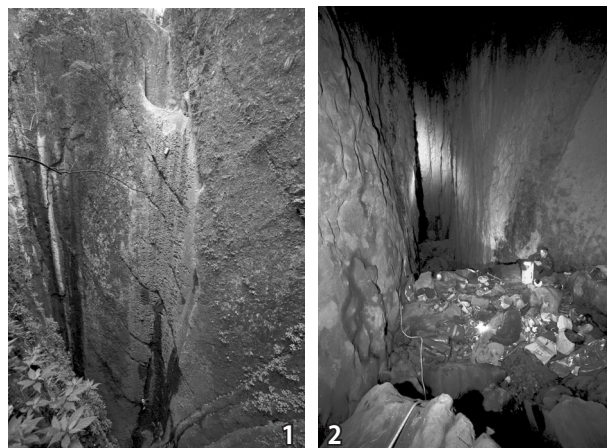


写真1 洞口(左上) 写真2 キャンプ1(右上)  
写真3 菊花石系なのか？生物化石なのか？(中央左)  
写真4 四足がありそれぞれに5本指？が見える。  
これは動物なのか？海洋生物？(中央右)  
写真5 フローストーン(下)